教育・人材育成

職業教育の継続と、就学前(4-6 歳児)教育の開始
ー ブラクールの挑戦 ー

（ひろしま祈りの石・国際教育交流財団助成事業）

辺境に位置し現金収入も極めて少ないブラクールでは、カレッジや専門学校への進学は極めてまれです。ハイスクール卒業時には自活能力が付く職業教育へのニーズが強まっており、昨年度はハイスクールの TLE(技術職業科)で基礎知識習得に重点をおいた事業を実施しました。

本年も引き続き助成を受け、実技能力の向上に力点を置いた事業の実施が決まりました。縫製、食品加工、鍛冶、木工、有機農法などです。

一方で一般学力の遅れの原因に、就学前教育の欠如があるとして、今年から幼児クラス(30 名)も始まりました。公立小学校ではすでに入学の条件になっているものです。

職業教育は中退生徒対策の参考になると教育省も注目しています。何よりも生徒の能力アップに繋がればと願っています。

＜2008 年度ブラクール校児童生徒登録数＞
小学校： 86 名
ハイスクール： 71 名
小学校教師 5 名の給与年間 42 万円は HANDS ブラクール会員(20 名)の支援会費を充当させていただいています。

給与天引きで先輩も応援ーあしなが奨学生ー

カトリーナ(左)とクリスチーナ

今年のあしなが奨学生は SCMSI カレッジ地域開発科2年生に進級したルナとクリスチーナの2名、クラマン・アカデミー初等教育科 1 年の 2 名(写真)、スララ国立農業大学 1 年のジョセフの合計 5 名です。HANDS あしなが会員7名の他、あしなが奨学金で育ったブラクール教師 5 名が、月々250 ペソ(給与天引)を負担して支えています。

家の手伝いや教会の雑用をしながら学ぶ
ー CMIP/HANDS 奨学金制度の試み ー

勉強についていけない、妊娠、親が強要した結婚。理由は様々ですが、昨年度の中途退学はハイスクールで 46 名中 6 名、カレッジは 26 名中 10 名と奨学金制度始まって以来最多でした。

52 号で報告のようにこの年代は国立の MSU に全入させてしまった指導ミスもありますが、全寮制の弊害も出てきたようです。厳しい山の生活と異なり、寮では炊事・掃除当番と勉強さえしていれば毎日お米のご飯が食べられます。月々100 ペソの分担金滞納問題もありました。貧困だけでなく親の責任放棄があるようです。

現地と話し合い、以下の 2 点が決定しました。

○ ハイスクール奨学生は、家に一番近い公立ハイスクール又は寄留できる親類があればその近くの公立に通う。(ミアソン寮は 4 年生とミアソンの公立校が最寄校となるアトゥモロック出身学生のみ)

○ カレッジ・専門学校生は勤労学生として修道院や教会に寄留し、その手伝いをしながら学校に通う。

管理が大変なこの方法への切り替えに CMIP が積極的だったのは、米代高騰により HANDS 奨学金内で寮の食費を賄うのが大変になったためもあるようです。

新学期が始まって間もないため、新方式への対応でスタッフは大変だと思います。よい報告を期待しています。

小学校教師国家試験受験支援事業

（WE21 ジャパン・さいわい支援事業）

エドウィン、メグレリンは5月末に集中講座を終了して、それぞれ出身コミュニティーのキアミとアトゥモロックで補助教員をしています。フランシスは週末だけの補習コースを選択したため、講習に出席しながら平日はラムアフス小学校で教師補助をしています。いずれも教育実習を続けながら、国家試験に臨めるので合格の可能性大です。